

波と風

理 念

思いやりのある
やさしい誠実な医療を
提供します

基本方針

1. わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

- 2～3P 診療科紹介 (病理診断科)
- 4～5P 診療科紹介 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
- 6P 職場紹介 (5A 病棟)
- 7P 職場紹介 (5B 病棟)
- 8P 職場紹介 (経営企画室)
- 9P 「令和8年度呉医療センター特定行為研修」
開講式の開催について
- 10～11P 緩和ケア研修会を開催して
- 12～13P インターンシップを開催して
- 14P 防火訓練を実施しました
- 15P はしご訓練を終えて
- 16P 広島県看護学生スポーツ交流大会を終えて～祝!2連覇～
- 17P ナイチンゲール生誕祭
～外来ホールを包む感謝の想いと学生たちの新たな誓い～
- 18P 令和8年度第1回オープンスクールを開催しました
- 19P 認定看護師の紹介
- 20P 永年勤続表彰
- 21P 連携医療機関紹介 (ホームケアクリニック呉)
- 22～23P うちの部署の接遇キラリさん
- 24P 我が家のスターたち、寄付について、編集後記

病 理
診断科

病理診断とは

病理診断科科长 倉岡 和矢



“病理診断”とはどのようなものかご存じでしょうか？普通、患者さんは病理診断科を受診されることはないの、聞いたことがあるくらいで、なじみが薄いかも知れません。簡単に言えば、病気そのものを顕微鏡で見て、最終診断をすることです。病気の診断方法には、問診や触診に始まり、血液検査やCTなど、様々な手段があります。その中でも、病理診断は病気の診断を確定するものです。特に、がんの診断には病理診断が欠かせません。たとえば、大腸内視鏡検査で、「大腸癌です」と診断される場合、消化器内科医が内視鏡で癌が疑われる病変の一部をかじり取り、それを病理診断科の技師がガラスに貼り付けた標本を作製し、病理医が顕微鏡で観察して、この細胞は癌細胞であると最終的に診断します（生検組織診）。また、手術で摘出された臓器から必要な部分を標本にして、癌の悪性度や広がりなどを調べ、抗がん剤治療を行うかどうかといった術後の治療方針に関わる診断を行います。手術中に病変や切除断端の標本を作製して診断し、手術方針の決定に役立てる迅速診断も行われます。また、痰や尿など液体中の細胞や、乳房のしこりなどから細い針で吸引された検体中の細胞を診断する細胞診も行われています。

このような一般的な病理診断業務に加えて、近年では分子病理学や遺伝子検査が進歩し、“コンパニオン診断”が増加しています。コンパニオン診断は、病気の病名を診断するのではなく、抗癌剤の適応など病気の性質を診断するものです。当科では、乳癌や胃癌、大腸癌のHER-2、肺癌などのPD-L1、大腸癌と子宮体癌のミスマッチ修復蛋白など多種多様なコンパニオン診断を行っています。最近では、免疫チェックポイント阻害薬などの新たな抗がん剤が

次々と開発され、コンパニオン診断は増加しています。また、より広く癌の遺伝子異常を調べ、抗がん剤が効かないがん患者さんの治療方針に役立てる遺伝子パネル検査を、令和2年2月より広島大学病院と連携して行っています。

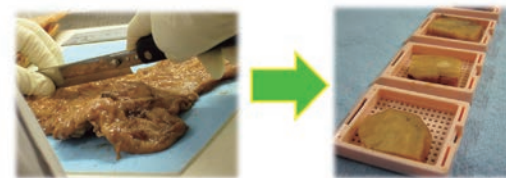
また、地域医療連携を推進する目的で、呉市医師会検査センター病理・細胞診と済生会呉病院細胞診の診断指導を行っています。

この他、病死された患者さんをご遺族の承諾のもとに解剖させていただき病理解剖を行っています。病理解剖では、生前の診断は正しかったのか、病気の進行はどのくらいだったのか、治療の効果はどれくらいあったのか、死因は何か、といったことを調べます。病理解剖では診断に必要な臓器だけを取り出し、ご遺体は清拭されてご遺族のもとに戻されます。解剖終了後、肉眼所見による暫定的な診断は病理医から主治医に報告され、ご遺族に説明されます。なお、最終診断が分かるのは、標本作製や病理組織診断による検討が必要となるため、数か月以上後となります。一般的に、この最終診断をご遺族に説明されることは少ないのですが、当科ではご遺族の希望に沿って、主治医や病理医から最終診断を説明したり、診断書のコピーを郵送するなどしています。

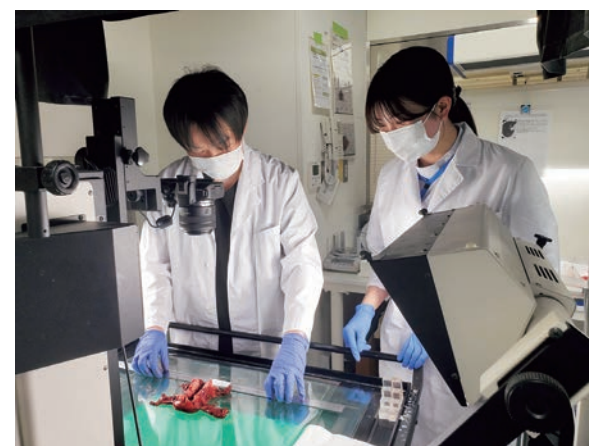
病理解剖の結果により生前の診断、治療が検証され、研修医の教育などの医学の進歩への貢献が期待されます。全国の病理解剖の情報は、日本病理学会の「日本病理剖検輯報」に集められ、貴重な死因統計情報となっています。

当科では患者さんの治療が適切に行われるよう、病理医と臨床検査技師が協力して、速やかに正確な診断をつけることを心がけています。

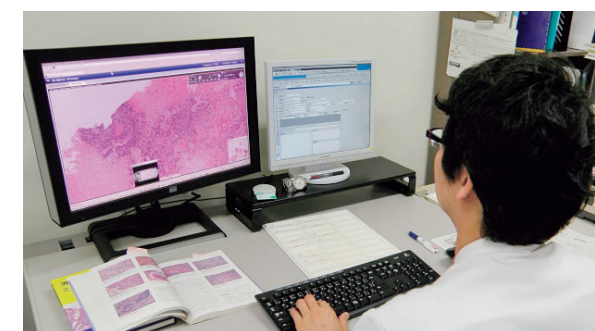
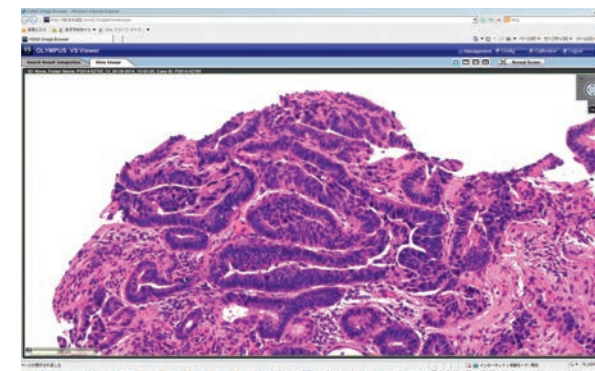
摘出臓器の切り出し



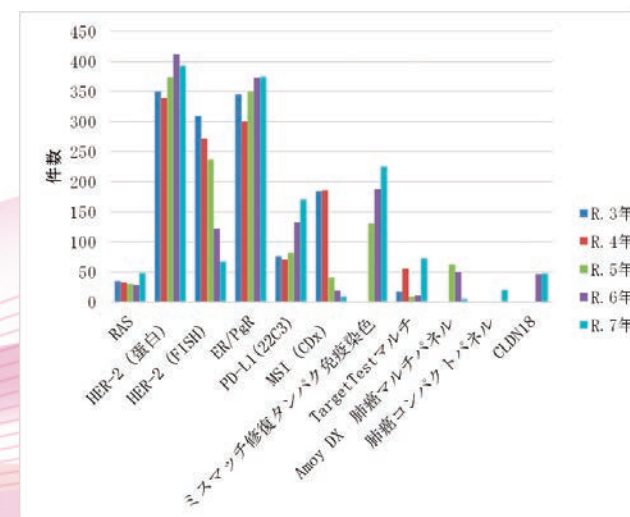
ホルマリン固定された臓器は適切な大きさに切られます



臓器写真撮影作業



大腸癌顕微鏡像



コンパニオン診断件数



病理診断科スタッフ一同

耳鼻咽喉科 ・ 頭頸部外科

耳鼻咽喉科と 睡眠時無呼吸症候群

耳鼻咽喉科・頭頸部外科科長
鮫島 克佳



はじめに

閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) は睡眠中に上気道が閉塞することでいびきをかいったり、呼吸が停止することで睡眠が浅くなり、寝不足や低酸素状態による様々な合併症を引き起こす疾患です。日本では2003年に新幹線の運転士が居眠りしたまま走行し、自動停止装置が働く事態となったことが報道され、その原因が睡眠時無呼吸症候群であったことから広く認知されるようになりました。

2. 睡眠時無呼吸症候群の検査

睡眠時無呼吸症候群の診断は測定装置を装着した状態で入眠して行います。自宅で行える簡易検査(アプノモニター：図1)と入院して脳波も測定する精密検査(PSG：ポリソムノグラフィー)があり、一時間当たりの無呼吸、低呼吸の回数を指標(AHI：無呼吸低呼吸指数)とします。今年6月より簡易検査でAHI30以上、精密検査でAHI15以上でCPAP(持続陽圧呼吸療法：図2)の治療適応となりました(以前はそれぞれ40以上と20以上)。

3. 当科における睡眠時無呼吸診療

CPAPによる治療は呼吸器内科、循環器内科、耳鼻咽喉科など複数科で行われています。当科での睡眠時無呼吸症候群に対する診療の特徴をご紹介します。

我々はOSASにおいて閉塞起点となる上気道を扱う診療科です。吸気は鼻の穴(前鼻孔)から入って鼻腔を通り、咽頭を経て喉頭へ至り、気管・肺に到達します。内視鏡などを用いてこの経路のどこが狭く、閉塞しやすいかを診断し、適切な治療法を選択できるのが当科の強みと考えています。

まず鼻腔についてですが、アレルギー性鼻炎や鼻中隔湾曲症(図3)、慢性副鼻腔炎などによる鼻閉により鼻呼吸障害が起こります。重度の場合はCPAPの装着すら困難な場合があります。適切な鼻炎治療や鼻科手術により鼻腔通気を改善することでCPAPが使用可能になったり睡眠の質が向上します。

咽頭レベルでの閉塞機転として、小児睡眠時無呼吸では口蓋扁桃やアデノイドの肥大が原因となる場合があります。成人では口蓋扁桃肥大のほか、上咽頭と中咽頭の境界にある軟口蓋、口蓋垂の形態が無呼吸の原因となっている場合は手術(軟口蓋形成術)の適応となる場合があります。日本人は顎の骨格が比較的小さく、相対的に舌が大きい傾向があります。仰向けで寝ると舌根が後方へ落ち込み、気道閉塞をきたす場合は下顎を前方に引き出すような形状のマウスピースで対応することもあります。咽頭粘膜下の脂肪は内臓脂肪と関連すると考えられています。過剰な脂肪は咽頭全周性の狭小化を招きますので減量も大切です。

4. 最後に

睡眠時無呼吸症候群を放置すると高血圧や糖尿病、心筋梗塞、脳卒中の罹患リスクが上昇するとされています。また、居眠りなどにより交通事故を起こす確率は7倍にもなるといわれています。ご家族にいびきや無呼吸を指摘された方、起床時に頭痛を生じたり血圧が高い方、日中の眠気の強い方、現在CPAPを使用しているが息苦しく使いづらい、もしくはうまく使えずCPAPを返却してしまった方など、適切な治療アプローチが提案できるかもしれません。是非ご相談ください。



図1：アプノモニター装着例



図2：CPAP装着例

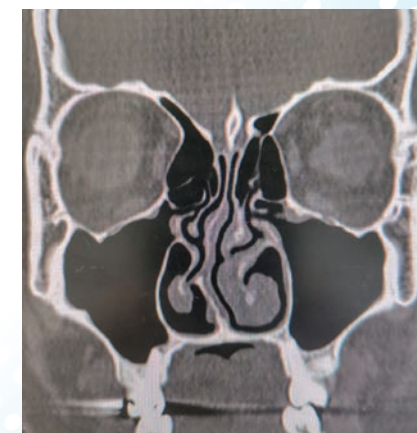


図3：鼻中隔湾曲症のCT画像



耳鼻咽喉科スタッフ



5 A病棟

看護師長 原田 幸江



5 B病棟

看護師長 佐藤 敬介



5 A 病棟は整形外科の病棟です。変形性関節症や脊椎疾患、骨折のほか、足関節や靱帯など治療部位は多岐にわたります。2025年度の手術件数は、整形外科1000件、その他の科14件でした。病棟では日々、周手術期からリハビリ期まで、機能回復を目指す患者さんの看護を行っています。入院される患者さんの多くは、基礎疾患に内科的疾患を有する方も多く、整形外科領域だけではなく、種々の疾患の看護を行っています。

患者さんの中には、当院での急性期治療が終わったあと、リハビリ目的で他の病院へ転院をされる方も多くおられます。大腿骨近位端骨折では地域連携パスや、FLS（骨折リエゾンサービス）による二次性骨折予防など、積極的に地域の医療機関との連携を行うことで、切れ目のない治療、リハビリが受けられるようになっています。

週1回の退院支援カンファレンスでは、医療ソーシャルワーカーと共に病棟担当の多職種が参加して、患者さんの今後の生活について多角的に検討しています。リハビリカンファレンスで検討する内容は、患者さんの個性を踏まえた日常生活援助につながっています。

看護方式では、PNS（パートナーシップナーシングシステム）を取り入れており、患者さんのベッドサイドに看護師2名ペアで伺い、観察・処置やケアを行っています。このことは、患者さんに安心・安全な看護の提供と、看護師の育成にもつながっています。

また、入院患者さんのご家族との関わりも、看護では大切です。病棟では、気持ちのよい挨拶を心掛けており、いつでも話しかけていただきやすい病棟の雰囲気的大事にしています。

5 A 病棟は、明るく笑顔の絶えない病棟です。新人看護師、ベテラン看護師も笑顔で患者さんに接しています。入院患者さんのよくなり、早く自宅に帰れるようになりたいという思いに寄り添った看護を提供できる病棟であり続けるよう、研鑽を積んでいきたいと思っています。

表1 病棟運営状況

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1日平均患者数(人)	52.6	52.9	53.7
病床利用率(%)	95.6	96.3	97.7
病床稼働率(%)	99.2	99.8	100.6

表2 手術件数(件)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
整形外科	889	962	1000
その他	9	7	14



写真1：5 A病棟スタッフ

5 B 病棟は55床で運営しており、主に循環器内科、腎臓内科、心臓血管外科の患者さんを受け入れ看護を行っています。令和7年度診療科別入院患者の割合としては、循環器内科48.9%、腎臓内科25.0%、心臓血管外科0.3%、その他診療科25.8%となっています。

循環器内科の主な疾患は、心筋梗塞、狭心症、心不全、洞不全症候群、閉塞性動脈硬化症などが挙げられます。これらの疾患に対する治療として、カテーテル治療やペースメーカー植え込み術が挙げられます。令和7年度の治療実績は、経皮的冠動脈形成術254件、ペースメーカー挿入術(リードレスペースメーカーを含む)41件、四肢血管拡張・血栓除去術105件でした。これらの治療は毎日行われており、病棟看護師が検査、治療の介助を行っています。また、令和8年度より当院で肺高血圧症の患者の治療も行っております。中国地方では、当院を含む2施設でのみ治療が可能であり大きな使命感を感じています。

腎臓内科では、腎臓の機能を評価する腎生検、末期腎不全患者に対し、血液透析導入、腹膜透析導入を主に行っています。急性腎不全、肺水腫患者に対しブラッドアクセスカテーテル挿入による血液透析治療、血液透析導入の為の内シャント作成、腹膜透析導入のための腹膜透析カテーテル挿入などを行っています。透析療法導入に伴い、患者の手技獲得の指導も行い、退院後の透析治療を継続する為の指導も行っています。



心臓血管外科は、腹部大動脈瘤の患者さんが入院されます。腹部大動脈瘤に対し、全身麻酔下で腹部ステント留置術を行っています。



写真1：心臓カテーテル検査

疾患の特徴としましては、生活習慣が大きく関与している事が挙げられます。令和7年度、呉市の高齢化率は35.5%と全国平均28.9%を大きく上回っており、ご高齢の患者さんが入退院を繰り返す事も多くあります。私たちは、入院前の患者さんの生活習慣を知り、一人ひとりの患者さんの個性を捉えて関わるようにしています。そして、疾患の悪化を最小限にしながら、病気と向き合いその人らしく生活ができるように考え看護しています。また、医師、薬剤師、栄養士、理学療法士など多職種で情報共有を行い、それぞれの専門的視点から患者さんを中心に援助を行っています。その為にも病棟として患者さんを良く知り、良く学び、よく話し、患者さんに適切な看護を提供できるよう、看護師として成長し合えるように皆で頑張っていきます。今後も5 B 病棟を宜しく願います。



写真2：5 B病棟スタッフ

経営企画室

経営企画室長 松生 理



経営企画室は事務部企画課に属する事務部の一部門です。主な業務は、年度計画の策定とその達成状況の検証、院内ヒアリングの実施、病院運営のための基礎資料(患者数、診療点数等)や財務資料(経常収支、資金管理状況等)の作成、月次決算評価会及びDPC検証委員会をはじめとする各種委員会への資料提供により、院内全体に対して運営・経営状況の周知を行っています。

他の事務部門とは少し異なり、簡単に説明すれば、病院を運営していくために必要な経営の情報等を取り扱い、必要に応じて情報発信や関係部署との調整を行うことが主な業務になります。

また、将来の病院運営を見据えての企画提案等も行っており、場合によっては病院の方向性に大きくかわることもあるため、経理責任者である院長の指示を仰ぎながら慎重に業務を務めることに努めています。

毎年5月から6月にかけて実施している院内ヒアリングは、各部門の年度目標を確認するとともに、各部門と幹部職員の意見交換を行う場であり、当室はその場の繋ぎ役として必要な情報を提供することにより、各部門が病院目標に沿った病院運営に円滑に参加いただけるようにサポートを行っています。

現在は総勢4名がこれらの業務に従事しています。

集計して数字を出して資料を作成して終わりではなく、その原因や要因を分析するまでが経営企画室に求められます。数値が悪化していればその原因を探し出すことや、対応策を見出すための資料を作成

することは、時間を要する上難解なことも多々あります。

そのような時は当室で検討するだけでなく、他の部門と連携してデータを抽出することもあり、場合によっては当該部署にヒアリングをして資料をまとめることもあります。

また、単に院内で使用する資料の作成にとどまらず、医療の質向上を目指す院内QC活動の事務局運営を担うほか、診療報酬改定の際には看護必要度など改定に伴う当院の課題を分析を通じて明確化し、具体的な対応策を提言するなど、現場の活動と経営の橋渡しとなる業務にも注力しています。

こうした現場との連携を大切にしつつ、呉圏域において人口減少が進行する中で当院が地域において果たすべき役割を考えながら、人手不足への対応や生成AI等の新技術も視野に入れた持続可能な病院運営の在り方について、具体的な方向性を導き出していくことで、病院に貢献できるよう日々努めています。



経営企画室スタッフ

「令和8年度呉医療センター特定行為研修」開講式の開催について

庶務係長 永島 一真



当院では、令和3年度より特定行為研修を実施しています。今年度は院内外から2名の受講生を迎え、繁田院長をはじめとした病院関係者立会いのもと、6月2日に「令和8年度呉医療センター特定行為研修」開講式を行いました。

特定行為とは、21区分38行為に分類された医療行為のことで、当院では、特定行為のうち救急医療に関連する「救急領域パッケージ」と、「栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理：PICC)」の2区分について研修を実施しています。

これらはいずれも通常は看護師が単独で行うことのできない医療行為ですが、特定行為研修を修了することで実施が可能となります。

今年度は、救急領域パッケージに当院および荒木脳神経外科病院の看護師2名が受講しており、

PICC区分については受講者がいません。

研修は6月からe-learningシステムを用いた講義を開始し、10月から年度末にかけて実習を通じた研修を行います。

受講生が今年度の研修を修了し、来年度から特定行為を実践する看護師として、それぞれの医療現場で活躍できるよう、関係者一同、全力で支援してまいります。



緩和ケア研修会を開催して

緩和ケアセンター統括診療部 部長 清水 洋祐



緩和ケアとは、「生命を脅かす病(がんなど)に直面している患者とその家族の QOL を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチ」と2002年WHO（世界保健機関）により定義されています。緩和ケアは、がん治療と別々に提供されるものではなく、がん診断時から有機的な連携を持って継続的に提供されることが重要とされます。

このことから、がん等の診療に携わる全ての医療従事者が、基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を習得することを目的に、厚生労働省の定めた「がん等の診療に携

わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づいた研修会の実施が、がん診療拠点病院に求められております。

当院では、平成21年度から開催しており、本年度は6月21日に第22回の研修会を実施しました。この研修会のプログラムは e-learning による事前学習後、330分以上の集合研修受講を必要とし、内容も全国統一の形式となっています。すべての単位を終了すると、厚生労働省健康・生活衛生局長名で修了証が授与されます。

今回は、20名の医師と2名の薬剤師(計22名)が受講しました。また、医師のうち2名は院外から参加されました。プログラムの半分が、ワークショップ・ロールプレイのため運営を行うスタッフは多数

e-learning プログラム

必修科目	必修科目	選択科目
緩和ケア概論	気持ちのつらさ	がん以外の疾患に対する緩和ケア
全人的苦痛と包括的アセスメント	せん妄	その他の身体的苦痛に対する緩和ケア
がん疼痛	コミュニケーション	不眠
呼吸困難	療養場所の選択と地域連携	緩和的放射線治療・神経ブロックによる症状緩和
消化器症状	ACP、看取りのケア、家族・遺族ケア	社会的苦痛に対する緩和ケア

集合研修プログラム

時 間	分	内 容	講 師
9:00~9:15	15	開催にあたって	清水
9:15~10:00	45	e-learningの復習	清水
10:10~12:00	90	コミュニケーション	大盛ほか
12:50~13:10	20	アイスブレイキング	清水
13:10~14:40	90	全人的苦痛に対する緩和ケア	砂田ほか
14:50~16:20	90	療養場所の選択と地域連携	砂田ほか
16:25~16:40	15	がん患者等への支援	清水
16:40~17:00	20	ふりかえりと修了式	清水

必要でありましたが、受講者の活発な討議が行われ有意義な研修会が行われました。終了後のアンケートでも、「がん告知する際の練習になってよかった」「これ

からの臨床に役立てていきたい」等の良い評価をいただきました。



インターンシップを開催して

教育担当看護師長 池田 知子



今年度、当院は看護学生を対象にインターンシップ開催を13回計画しています。

インターンシップのスケジュールは、日程を平日・土曜日等に開催し、学生さんが参加しやすい開催にしています。インターンシップの内容は、呉医療センターの概要、看護体制、看護教育研修計画等について説明を行い、その後、実際に病棟の見学を行います。見学する病棟は希望を事前に確認し、調整しています。

インターンシップに参加した学生さんの動機は、「病棟の雰囲気を知りたい。」「実際に働いている先輩看護師さんの話が聞きたい。」「急性期病院の看護場면을体験したい。」「実習では経験できない診療科を経験し、今後の就職の病院選びをしたい。」などという思いからでした。インターンシップの体験の中で、臨地実習では体験できない看護ケアや先輩看護師さんから話が聞けたことは、学生さんには刺激的なようでした。実際に先輩看護師さんと会話の中で学生さんからは「なぜ看護師になろうと思いましたか。」「看護をされていて楽しい時やつらい時は

どんなときですか。」等の質問があり、先輩看護師さんから直接、話を聞けたことは、不安解消に繋がっているようでした。また、看護体験の場面を通して働いている看護師の姿に、ますます看護師になりたいという思いに繋がっている様子でした。臨地実習では、聞けないことを質問し、話ができる時間を設けたことで、「実際の病棟や看護師の雰囲気を知ることができた。」「とても穏やかな雰囲気の中、自分を成長させることが出来ると感じた。」「患者さんの為に役に立つことが出来る看護師になりたい。」等、生き生きと話している学生さんが印象的でした。インターンシップの終了後のアンケートでは、「看護教育体制がしっかりしている。」「患者さんの思いに寄り添う看護は改めて素敵だと感じました。」「看護師の方が患者さんだけでなく、家族の方への声かけやコミュニケーションも見せてもらい、家族支援を大切にされているところがとても魅力に感じました。」という感想があり、教育担当看護師長としては、大変嬉しく思います。

看護師として入職したあとに、看護学生の時に経

験した看護場面との違いにギャップがあると答える新人看護師が多いため、看護学生の時にインターンシップを通し、看護師の実際を知ることは、大変、効果的ではないかと思います。また、学生の就職希望先を決める前にインターンシップを通し、病棟の雰囲気や、実際に働く看護師の姿を体験することは、就職先選びの一つへと繋がるようです。令和7年度の参加者の50%が令和8年度に当院へ就職しました。インターンシップの経験が「当院で働きたい。」「看護師として成長したい。」という繋がりになっているのであれば、ありがたいことと感じています。そして、最近の学生さんは看護師になることがゴールではなく、その先の

診療看護師、認定看護師、専門看護師、看護教員、災害医療派遣チーム(DMAT 隊員)などの資格習得への希望を持たれている方が多くいます。資格習得への支援体制があることも就職へとつながっており、インターンシップに参加したことが目指す看護師像への一助になれていることに大変嬉しく思います。

今後もインターンシップに参加して、呉医療センターの魅力を知ってもらい、参加してよかったと思ってもらえるように、そして、良い思い出を持って帰ってもらえるように、これからも開催を継続していきたいです。



防火訓練を実施しました(令和8年4月28日)

呉医療センター附属呉看護学校 教員 戒能 正美



本校では4月28日、学生の防災意識を高め、緊急時に自ら考えて行動できる力を養うことを目的に、防火訓練を実施しました。看護学生として「自分と人の命を守る」姿勢を身につけるため、今年度は夜間設定の寮訓練と、昼間の学校全体避難訓練の二部構成で行いました。

第1部の寮訓練では、夜間の暗がり进行を想定し、限られた視界と人員の中でどのように行動すべきかを確認しました。暗い環境での避難は不安も大きく、初動の遅れが重大な結果につながる可能性があります。学生は緊張感を持って訓練に臨み、迅速な通報、避難経路の把握、寮生同士の声かけなど、実際の場面で求められる行動の一つひとつ確かめました。特に、周囲の状況を冷静に判断し、仲間と協力して行動する重要性を実感する機会となりました。



第2部の学校全体訓練では、授業中の火災発生を想定し、全学生が市民グラウンドへ避難しました。広い範囲での移動となりましたが、学生は落ち着いて行動し、教職員と連携しながら点呼完了までの流れを確認しました。避難経路の選択や誘導の仕方など、実際の災害時に必要となる判断力を養う場となり、全体として統率の取れた訓練となりました。

今回の訓練を通して、学生一人ひとりが「もし今、火災が起きたらどう動くか」を具体的に考えるきっかけとなりました。今後も、看護職を目指す者として必要な危機対応力を育むため、継続して防災教育に取り組んでまいります。



はしご訓練を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 服部 景子



看護学校では、4月28日(火)に今年度入学した64回生を対象にはしご訓練を行いました。はしご訓練は火災または災害発生時に避難できるよう、普段使うことのない避難はしご、非常はしごを使って安全に地上に降りる訓練です。先に降りた学生が揺れる非常はしごを支えるなど各グループで協力しながら実施することができました。また、能美防災さんより消火器や消火栓の使用方法、注意点についてレクチャーしていただきました。消火栓での放水では想像以上に水圧が強く、驚く学生が多くいました。



はしご訓練を終えた学生からは、「はしごは思ったより怖く、災害時でも慌てずゆっくり降りることが大切だと分かりました。」や「実際に火災が発生したときに避難するべきか消火するべきか冷静に判断しなければいけないと思った」など訓練を行うことで実際に災害が発生したとき、自分自身どう行動していくべきか考える機会にもなりました。

広島県看護学生スポーツ交流大会を終えて～祝!2連覇～

呉医療センター附属呉看護学校 教員 奥田 真由美



6月5日広島サンプラザホールにて、第75回広島県看護学生スポーツ交流大会が開催されました。広島県内の8校の看護学生と教員約740名が集い、スポーツを通じて交流を深めました。今年度、当校は大会運営の担当校として、全学生、教員が一致団結し、約1年前から「担当校の役割も果たし、かつ2連覇をする!」を目標に実行委員会を中心に準備を進めてきました。そして、大会当日は学生一人一人が自身の役割を一生懸命果たし、競技にも真剣に挑み、見事「2連覇」を達成することができました。

今年度の大会テーマは「笑顔結心～心をつなぎ看護の力を高めよう～」としました。これには、スポーツ交流大会を通して、同じ看護の道を目指す仲間として、笑顔で心をつなぎ、親睦を深めること、また今後の学習意欲を高めてもらいたいという願いを込めました。

大会は、応援合戦、ボール運び、障害物リレー、大縄跳び、ドッジボールの5種目で競いました。また、今回は各校との交流を深めることを目的に、開会式後にじゃんけん列車を、競技の間にエール交換を行いました。じゃんけん列車には学生だけではなく、教員の方々にも参加していただきました。広いアリーナが参加者の笑顔と共に、徐々にいくつもの長い列車で埋め尽くされていく様子は圧巻でした。応援合戦はダンスクラブを中心に1・2年生で練習を重ねてきました。アリーナの広さを十分に生かして踊ったダンスは、学年を超えたつながりを強く感じることができた素晴らしいダンスでした。その他の競技も、全員が走ったり、跳んだり、ボールを運んだり投げたりと力を出しきりました。



例年は競技と応援に集中して取り組むことができますが、今年は担当校としての役割も果たす必要がありました。大会前日まで会議やリハーサルを重ねたことで、当日は学生全員がこれまで準備して蓄えた力を十二分に発揮して、それぞれの役割を果たすことができました。会議やリハーサルを重ねるごとに成長する学生の姿は本当に頼もしく、当日自らが考えながら動く姿は誇らしく思えました。そのため、閉会式で優勝と分かったときの学生の歓声は、1年間の頑張りが報われ、成果となって表れた喜びと達成感があふれ出たものであったことと思います。本当におめでとう、そしてよく頑張りました。

これからも学年間の、そして学年を超えたつながりを大切に、呉看全員で何事も楽しみ、一生懸命取り組んでいくことができるよう、支援をしていきたいと思っています。



ナイチンゲール生誕祭 ～外来ホールを包む感謝の想いと学生たちの新たな誓い～

呉医療センター附属呉看護学校 教員 小杉 恭子



呉医療センターの外来ホールにおいて、5月29日にナイチンゲール生誕祭を開催しました。

実習を受け入れてくださる患者様や医療スタッフの方々へ感謝の気持ちをお伝えする機会をいただき、学生たちは多くの方々の前で「誓いのことば」や、手話や振付けを交えた歌唱、楽器の演奏を披露することができました。人と人を結びつける絆という意

味を表す「水引」を使って、学生全員で心を入れてストラップを手作りし準備したものを、会場に来られた方々へお渡しすることができました。

学生たちが「感謝をどのようにお伝えするか」、3学年全員で考えながら運営する過程において、貴重な成長の機会となりました。今後とも学生へのご支援をよろしくお願い致します。



手話を交えた1・2年生の歌唱



音楽部の新入生のハンドベル演奏

ナイチンゲール生誕祭
5月12日はナイチンゲールの誕生日です
日時:令和8年5月29日(金)14:00～14:30
場所:呉医療センター 1階外来ホール
内容:①ナイチンゲール賛詞・誓いのことば唱和
②音楽部によるハンドベル演奏
曲名:「星に願いを」他
③看護学生による歌唱～みなさん 一緒に～
「大きな木の下で」「365日の紙飛行機」
「栄光の架橋」「幸せなら手をたたこう」

日頃から、私たち看護学生のために実習を受け入れてくださっている、患者様や病院スタッフの皆様へ、感謝の想いと「笑顔で通じて頂きたい」という願いを込めて、ハンドベルの演奏と手話や振付けを交えた歌唱を披露させていただきます。
みなさまの御越しを心よりお待ちしております。

◆心を込めて作りました「水引ストラップ」をご来場くださいました皆様にお渡しします。
ストラップは数に限りがございます。
なくなり次第、配付は終了させていただきます。ご了承ください。

※当日、院内テレビ(12ch)にて生中継放送いたします。
呉医療センター・呉看護学校 学生一同



2階には3年生が整列 「誓いのことば」が外来ホールを包んだ



メッセージカードを添えた
手作りの水引ストラップ



司会進行を務める実行委員の2人
山根梨花(左) 山根梨花(右)

～ナイチンゲール生誕祭を終えて～
ナイチンゲール生誕祭実行委員として準備や運営に携わり、学生全員で協力して一つの行事をつくり上げる貴重な経験をさせていただきました。仲間と支え合いながら活動したこと、協力することの大切さや達成感を感じることができました。また、お越しになられた方々との交流を通して、看護学生として思いやりや感謝の気持ちを大切にすることの重要性を改めて学びました。この経験を今後の学びや実習にも活かしていきたいです。
2年生(63回生) 山根 梨花・山根 梨沙

令和8年度第1回オープンスクールを開催しました

呉医療センター附属呉看護学校 教員 戒能 正美



本校では7月4日(土)オープンスクールを(午前の部、午後の部)開催しました。雨で呉線が止まるというアクシデントもあった中、多くの受験希望者、保護者の皆さまにご参加いただきました。朝9時の受付から始まり、視聴覚教室でのオリエンテーション・教員紹介に続いて、学校説明、看護部長様による病院説明、学生による学校紹介、教員による公開講座を行いました。参加者の皆さまは熱心に耳を傾けられ、本校の学びの特徴や学生生活への理解を深めておられました。

病院説明や公開講座の後は、3つのブースに分かれて看護技術体験を実施しました。1年生は習得したばかりのシーツ交換技術を、2年生は1年生に手浴技術を指導し、それぞれがこの日に向けて一生懸命練習を重ねてきました。当日は、学生が中心となって参加者への誘導や説明を行いました。参加者からは「実際の技術に触れられてイメージがわいた」「学生さんが丁寧に教えてくれた」といった声が聞かれました。保護者の方にも体験に加わっていただき、和やかな雰囲気看護技術を体験しながら交流が進みました。入学からわずか3か月の1年生ですが、いきいきと活動する姿から、看護学生として着実に成長していることを実感する機会となりました。

後半は、教室にて在校生との座談会を行い、参加した受験希望者だけでなく、保護者の皆さま向けにも別室で座談会を実施しました。保護者の方々は教員や病院職員(看護部)と直接話を交わし、学校生活や実習、卒業後の進路などについて理解を深められ、



写真1：手浴体験

親交を深める貴重な機会となりました。また、視聴覚教室ではアンケートにもご協力いただき、今後の学校運営に生かす多くのご意見を頂戴しました。なかでも、メインの実習先である、母体病院と密に連携していることをご理解いただいたように感じました。

終了後は希望者を対象に、寮見学・進路相談を実施し、個別の疑問や不安に丁寧にお応えしました。

今回のオープンスクールを通して、本校の学びの雰囲気や学生の姿を直接感じていただき、進路選択の一助になれば大変うれしく思います。ご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



写真2：高齢者体験



写真3：シーツ交換体験



写真4：在校生との座談会

認定看護師の紹介

緩和ケア認定看護師 和田 かおり



呉医療センターには、3名の緩和ケア認定看護師がおります。それぞれの緩和ケア認定看護師は、外来、病棟、地域連携室に配属されて、患者さんやそのご家族への看護を行っています。患者さんやその家族が抱える身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦悩に対して、全人的な視点から包括的にとらえて対応し、患者さんやそのご家族のQOLの向上を目指して活動をしています。



私は、外来の放射線治療室に所属しています。放射線治療室では、放射線治療を行うだけでなく、診察もしています。診察を受ける患者さんには、放射線治療を受けるのがいいのだろうかと思いをもちて来られる方も、いらっしゃいます。

診察の時に同席して患者さんの病気に対する思いや日々の生活への思い、家族への思いなど、その方が持つ思いを語れるように、お話を聞かせていただいています。患者さんの語りを通して、患者さん自身がどのようにしたいのか、どのようになりたいかをお伺いして支援することを大切にしています。

また、放射線治療はどんな治療なのか、日々どのような変化があるのか、その変化に対してどのようにすればいいのかなど、できるだけ分かりやすく説明するように心がけています。患者さんご自身が放射線治療について理解して、治療に臨んでいただきたいと思います。



「緩和的放射線治療」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。放射線治療には、がんを治したり、生存期間を延ばしたりする治療としての効き目があります。それ以外に、がんの痛みを和らげたり、がんが引き起こす様々な症状を軽減したりするなど、患者さんのQOLを維持・改善することを目的とした放射線治療もあります。これを「緩和的放射線治療」といいます。緩和的放射線治療を受けられる方のなかには時々、痛みや息苦しさ、むくみなど、苦痛な症状があります。このような症状のある患者さんの苦痛を理解して、症状が和らいで少しでも楽に治療が受けられるように、工夫を重ねることを目指しています。患者さんに関わる医師や、診療放射線治療技師、病棟看護師が協力して取り組み、患者さん自身と相談して、治療中、治療後のQOLの向上を目指しています。

また、年1回開催される院内のがん看護研修会などで、看護師へ専門的な知識の提供を行い、相談を機会に、なぜそうするほうが良いのか、どのようにすればもっと患者さんが安楽になるのかを伝えていきます。それと同時に、私自身も新しい知識を学び、視野が広がる有意義な機会になっています。

今後、医療現場はさらに複雑化、多忙になっていきます。その中でも、引き続き患者さんの思いや語り、医療スタッフの小さな気づきや工夫を大切にしていって日々、実践を重ねていきたいと思っています。



永年勤続表彰

給与係長 阿武 禎人



国立病院機構では毎年4月1日時点で、国立病院機構の職員としての在職期間の合計が満20年又は満30年に達し、勤務成績が良好な者について、それぞれ「永年勤続20年表彰」又は「永年勤続30年表彰」を行っています。

今年度は6月1日(月)に勤続20年以上勤務した職員について永年勤続表彰式を執り行いました。

当日は幹部職員列席の元、繁田院長より表彰者一人一人に対して理事長名での表彰状が授与されました。

続いて繁田院長が、これまでの職員に対する感謝の気持ちや病院のこれからに期待を寄せる言葉を述べました。

表彰された方々、永きにわたり国立病院機構の発展のためにご尽力頂き、ありがとうございました。今後とも国立病院機構の発展のため、引き続きよろしくお願い致します。



表彰者(30年以上)

職 名	氏 名
助産師	新 谷 真 美
看護師	末 本 美 織

表彰者(20年以上)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
病理診断科医長	倉 岡 和 矢	看護師	木 村 江 美
臨床工学技士長	多賀谷 正 志	看護師	上 空 清
副薬剤部長	小 倉 千 奈	看護師	日 野 愛
副看護師長	宇 根 愛	看護師	富 中 香 那
副看護師長	丸 口 忍	看護師	石 川 達 也
看護師	西 本 優 子	RI検査主任	灘 尊 則
看護師	永 矢 恵 梨	医療社会事業専門員	渡 邊 恵理子
助産師	一 色 愛		

記念撮影(30年以上)



記念撮影(20年以上)



連携医療機関 紹介

ホームケアクリニック呉

院長 渡邊 裕亮

糖尿病内科の専門性を活かした訪問診療で、安心の在宅療養を支える



院長 渡邊 裕亮

当院は、旧鷹橋医院を基盤とし、呉市および周辺地域を対象に、住み慣れた我が家での療養生活を24時間365日体制でサポートするために、2025年10月に開院しました在宅医療専門のクリニックです。

私は広島県出身ですが、大阪大学医学部卒業後、大阪府内の基幹病院にて研鑽を積み、同大学院へ帰局し、臨床、研究、そして教育に従事しました。特に専門分野であります糖尿病および関連疾患につきましては、高度な専門医療の最前線を見てきました。2023年に故郷である広島へUターンし、地域医療・訪問診療の経験も積みました。恥ずかしながら帰郷前は、基幹病院の医師の立場の観点しかなく、地域医療・訪問診療の現状を全く把握しておりませんでした。特に訪問診療につきましては、終末期医療やがんの緩和ケアのイメージが強く、私の専門分野である糖尿病とは無縁とまで考えていました。

しかし地域医療に身を投じてからは、訪問診療が必要な患者さんは、必ずしも終末期の患者さんではなく、

何らかの事情で急性期病院および外来の受診ができない方が多数いらっしゃることを知りました。そしてそのような患者さんにも格差が生じないような医療を提供したいという思いも強くなりました。その折に、このたび昨年開院した当院に招聘いただき、2026年5月より当院の院長として診療を行っております。

在宅医療は患者さんの生活環境やご家族のサポート状況に左右されます。当院では、患者さんの療養環境を直接拝見し、多職種と綿密に連携しながら、その方の生活に即した治療を行います。患者さんの生活を直接拝見しますので、場合によっては外来での管理以上に細かなアプローチも可能です。特に私の専門分野である糖尿病につきましては、インスリン治療をはじめとし、外来通院が困難になった生活習慣病の患者さんの管理に積極的に取り組んでまいります。医療関係者の皆さまにおかれましては、「糖尿病のコントロールや自己注射が必要だが、外来通院が難しい、自宅での管理が不安」という症例がございましたら、ぜひ当院へご相談ください。もちろん、終末期医療にも24時間365日体制で取り組んでおります。

呉の地域医療の発展と、患者さん・ご家族が笑顔で過ごせる毎日に貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ホームケアクリニック呉 (旧鷹橋医院)

院長 渡邊 裕亮

〒737-0902 広島県呉市焼山此原町21-12
TEL(0823) 33-0808 info@kurehc.com

うちの部署の 接遇キラリさん



看護部
4B 病棟
看護師
中路 創さん



4B 病棟は小児科・リウマチ・膠原病内科・内分泌・糖尿病内科の混合病棟です。新生児から高齢者まで幅広く看護が行え、多くの経験・知識を培うことができます。私は看護師として「会話」を大切に看護しています。何気ない世間話からも得られる情報は多く、生活歴や嗜好品などの会話から距離を縮め、病気に対する不安や困りごとなどを話して下さる方も多く、そこからその方にあった看護へと繋げています。これからも「会話」を看護の軸として大切にしていきたいと思っています。



森 4B 病棟看護師長より

中路さんは、患者さんに優しく丁寧な対応ができるため、患者さんが中路さんの顔を見ると、「いつもありがとうね、今日は担当してくれるの」と声を掛けられる部署の癒し系です。スタッフに対しても先輩・後輩関係なく慕われており、後輩育成にも積極的に関わってくれています。今後も患者さんへの看護はもちろんのこと、部署を支える存在として期待しています。



看護部
7B 病棟
看護師
杉本 碧泉さん



7B 病棟では、白内障などの手術のために短期入院される方から、肺がん・脳梗塞の治療のために長期入院される方、定期的に入院される方まで、多様な患者様が入院されています。私たち看護師は、患者様に一番近い存在として、不安なことや困ったこと、手伝いが必要な時に話しかけやすい存在となれるような関係づくりを大切にしています。そのため、笑顔を忘れず、患者様の立場に立った対応ができるよう心がけています。



阿部 7B 病棟看護師長より

杉本さんは、いつも明るい笑顔を絶やさず、気持ちのよい挨拶を返してくれます。7B 病棟には、さまざまな疾患や治療目的をもった患者様が入院されています。だからこそ、私たちは患者様一人ひとりの声に耳を傾け、その方らしさを尊重した看護を実践していくことが大切です。杉本さんの明るい笑顔と持ち前のキャラクターは、周囲を和ませ、病棟を優しい雰囲気にしてれています。また、スタッフの笑顔を引き出し、患者様との温かいコミュニケーションにもつながっています。私たちスタッフ一同も〇本さんを見習い、患者様が安心して過ごせる療養環境と信頼関係を築けるよう努めてまいります。これからもその明るい笑顔で、病棟を元気に引っ張っていきましょう。



治験管理室
看護師
堂下 真奈さん



治験管理室は専任の薬剤師や看護師が治験コーディネーターとして配置され、治験を適切に円滑に実施するための活動を行い、治験における科学性、倫理性及びデータの信頼性の確保に努めています。患者さんが安全に治験を受けられるように院内外との連携と連携することが大切です。治験業務は初めてなのでスタッフとのコミュニケーションを大切に、分からないことはすぐに確認するように意識しています。患者さんが適切な方法で治験を受けられるように、早く業務を覚え貢献していきたいと思っています。



矢野 治験主任より

堂下さんは7月から非常勤 CRC 看護師として治験管理室の一員に加わりました。CRC は患者さんに寄り添うだけでなく、医師・看護師・薬剤師をはじめとする院内スタッフ、さらには治験依頼者とも幅広く連携しながら、治験を適切かつ円滑に進めていく大切な役割を担っています。初めての治験業務で覚えることも多いと思いますが、持ち前の丁寧な姿勢とコミュニケーションを大切にしながら、少しずつ経験を重ねてほしいと思います。今後の活躍を期待しています。



診療情報管理室
診療情報管理士
家本 航佑さん



診療情報管理室では、DPC 登録やがん登録、退院時サマリの確認、量的点検など、診療情報に関わるさまざまな業務を行っています。患者さんと直接関わる機会はありませんが、他部署との連携が多いため、専門知識をいち早く身に付けるとともに、日々のコミュニケーションを大切にしていきたいと考えています。一つ一つの業務を丁寧に行い、チーム医療を支えながら、医療の質の向上と適切な病院運営に貢献できるよう努力していきたいと思っています。



久保 診療情報専門職より

家本さんは当室では十数年ぶりとなる新卒採用1年目の診療情報管理士です。ベテラン勢のなか緊張すること多いとは思いますが、高いコミュニケーション力でしっかりとけこんでくれています。業務では細かいところにも気が付き、ミスも少ないと先輩の評価も高いです。今後の成長と活躍を願っています。



我が家のスターたち



保護者コメント

2歳2か月で入園し、この6月で3歳になりました。

当初は、保育園に連れていくと「やだー」と泣いていましたが、今では「先生行く!!」「〇〇くん、〇〇ちゃんと遊ぶ!!」と言う事が増えて、親としては嬉しいばかりです。

色々な歌が歌えたり、ダンスが出来たり、トイレが成功したりと、日々成長を感じています。

毎日楽しそうな希愛ちゃんがこれからもスクスクと成長してくれることを願っています。

お調子者ですがとても可愛いので、その調子で楽しく過ごしてほしいです。

池本 希愛ちゃん



担任保育士のコメント

いつも元気いっぱいパワフルな希愛ちゃん!

入園当初はたくさん涙が出ていた希愛ちゃんも、今では毎日大きな声で「せんせーおはよー!」と登園していますね。その弾けるような笑顔に、先生たちもお友だちもつられて笑顔になっているよ♡

はじめは苦手だった給食も今ではなんでも食べられるようになったり、トイレトレーニングも成功ばかり。カッコいいです☆

退園(卒園)は寂しいけれど、その持ち前の明るさと頑張る力で新しい園でも希愛ちゃんらしく過ごしてね!



保護者コメント

1歳で入園した当初は、まだ歩くことができずお尻で移動し、登園時の離れる時には泣いていた咲桜も、今では嬉しそうに小走りで登園し、笑顔で手を振ってくれるようになりました。温かい先生方のもとで日々成長した姿に先生方には感謝しています。

好きな男の子もできたようで、朝起きると「〇〇くん行く?先生行く?」と言って起きて、登園して好きな男の子を見つけると「〇〇ー!」と呼びながら走って抱きつこうとしています。

8月からは転園となり、寂しい思いをさせてしまっていますが、新しい環境でも咲桜らしく元気に成長していったほしいと思います。

櫻井 咲桜ちゃん



担任保育士のコメント

元気いっぱい笑顔が素敵なえみかちゃん!

入園した頃は不安で涙を流していましたが、すっかりお姉さんになり、当番をしたり、小さいお友だちと遊んだり成長した姿に感動しています。

「せんせー!」とお話してくれる姿もとってもかわいいです♡

これからもえみかちゃんらしく、すくすく大きくなってね!



呉医療センターへご寄付をいただきました。

令和8年4~6月に、ご寄付をいただきました。

◆ご寄付 一般社団法人 呉市医師会 様

(呉医療センターの臨床研究(病理研究)発展のため)

気持ちのこもったご支援をありがとうございました。

編集後記

ワールドカップも終わり、眩しい太陽の光とともに、待ちに待った夏がやってきました。

熱中症にはくれぐれもお気をつけて、充実した夏をお過ごしください。まだまだ暑さはこれからが本番です。

皆様が健康にこの夏を乗り切られますよう、心よりお祈り申し上げます。

(広報委員会)